

# 日本と海外 (アメリカ)での エステティック 業界の違い



サロン情報  
formachika TAKANAWA Salon  
東京都港区高輪2-13  
formachikainfo@gmail.com  
ブログ: <http://ameblo.jp/formachika>  
Facebook : <https://m.facebook.com/formachika>

サロンの特徴  
完全プライベートサロン。  
女性のための子宮セラピーや睡眠の質を高めるヒーリングなどアンチエイジング効果の高い独自の手法を駆使したパーフェクトリセットビューティーセラピーが人気。日本人では、主に40代がメインとなっており、また英語でのコミュニケーションと海外主流の手法も取り入れているため、在日外国人、または海外から、主にアメリカ、ヨーロッパのセレブマダム御用達サロンにもなっている。



あなたは、どんな種類の資格を持っているだろうか？  
日本では、エステティックで働く際に、仮に資格をもっていなくとも、サロン独自の研修 3 週間程受けることや、現場できちんと機能すれば、お客様につくことができる。

ある意味、意志があり、やる気があれば、誰にでもできる仕事となる。

もちろん、お客様を癒したい、元気にさせたい、役に立ちたい、自分ができることをしたい、そんな様々な思いを抱いて、やっているエステティシャンもいるし、もしかしたら、ほかに仕事がなく、これならできるかもしれない、とおもってやっているエステティシャンもいるのかもしれない。そして、日本の民間の資格だけでなく、様々な検定、たとえばアロマセラピー検定やハーブ検定、カラーリストやヒーリングメソッドにいたるまで、それこそ努力を惜みず、向上するためにがんばって磨き続けるエステティシャンだっている。しかしながら、社会的なイメージとして、果たして日本のエステティシャンのイメージとは、どんなものなのだろうか？

海外、特に私が生活していたアメリカでは、州毎に法律があり、そして資格が存在している。たとえば、私がニューヨークの資格所持者だからといって、カリフォルニアでは働くことができない。もちろん書き換えるための申請などのシステムはある。

また、エステティシャンだけでなく、マッサージセラピスト、ネイリスト、ヘアスタイリストなど、それぞれに資格が存在する。それらを統合して資格を持つと、「コスメトログジスト」となることもできる。そしてそれらの資格の証明書となるものを、サロンで提示することも義務付けられている。しかも、抜きうちで、州から検査が入ることがある。それくらい「人のカラダに触る、ということは責任の大きなこと」なのだと感じる。

資格取得について、もっと説明すると、たとえば NY 州では 600 時間以上の講習を必ず受けることが義務付けられ、3ヶ月のプラクティカルトレーニング、という、いわば現場経験をやる期間が設けられる。その3ヶ月で、実際にお客様のフェイシャルをする経験を積む。お客様側は、プラクティカルトレーニングとわかっており、もちろん金額は安く受けられ(チップはもらえる場合はある)、多少のリスクも覚悟してくれる。学校側が集客し、様々な方々が受けにきてくれるので、本当に様々なお肌のお客様を体験することができる。ましてや NYC となると、様々な人種があり、本当に一筋縄にはいかないのが、経験値を高めてくれる。その上で、初めて州の資格を取得する試験を受ける権利を持つことができる。

その試験は筆記と実技とあり、最初に筆記に受かってからでないと実技は受けられない。またその筆記試験は、ネイティブのアメリカ人でも苦戦するほどの専門性が高いだけでなく、文章の理解力や本当に細やかに理解していないと答えられない問題ばかりであり、外国人はかなり苦戦する。そしてやっと受かったら、実技試験となり、いわれたとおりのことがきちんとできるかどうかを見られる。つまりどの過程をやるのかは、直前までわからない。そして、結果は郵送で送られてきて、初めてその資格を所持することができるというわけだ。しかしながら、その資格を持っているからといって、すぐさまどこかのサロンで即戦力になるかというところでもない。使えない、とさえ言われる。やはり本当の現場と学校はどここの世界でも違うものなのだ。やっとスタート地点に立たせてもらえる、それが資格というものなのだを知る。

さて、日本でインターナショナルライセンス、というものがある。まるで、それを所持していると、どこの国でも働けるようなイメージだ。

しかし、そんな簡単なことではなく、むしろまったく役に立たない。その資格を見せたところで、「ああ、そうなの」といわれて終わりだ。

その国のその州の資格を所持していたって、なかなか働くことは難しいのだから、当然なのかもしれない。資格は、あくまでもスタート地点であり、そしてそれらは、国や州によって、当然ながら違うものなのである。

知識を持つことはとても重要だ、そしてそれ以上に経験は財産となる。

だが、それだけでは、海外では働くことができない。その国のルールというものがあるのだ。そして、本当に働こうとおもったら、資格以上に労働ビザが必要となってくるというカベもでてくる。そういう生活することも含めてすべて理解したうえで、初めて可能となる。逆をいえば、それらをちゃんとひとつひとつクリアして、挑戦していけば、海外で働くことは可能なのだということでもある。その国の事情をきちんと理解する、ということがとても重要になってくる。

そして現場で実際に、私はアメリカのサロンで働いた時、とても戸惑うことが多々あった。日本での現場経験をしてきたこともあり、違いに驚いたからだ。大きく2つのことがあげられる。

## その1、フェイシャルとは、クリーニングのことである。

たとえば、フェイシャルを受けにきたお客様に日本で通常

行うクレンジングや洗顔はもちろん行い、吸引や時にはブラッシングでのクリーニングをし、そして最上級の小顔リフトアップするリラクゼーション効果もあるフェイスマッサージを行い、イオン導入なども希望があればする、そして仕上げにスペシャルなマスクをする。お客様はくつろぎ、とても気持ちよく眠っている、さぞかしご満足いただけたらとやり尽くした気持ちになっていた私に、お客様が終わってから私に言った言葉は、「とても気持ちがよかったですけれど、これはフェイシャルじゃないわ」だった。

私は、かなりのエネルギーを注ぎ、そしてアンチエイジング効果もでているにもかかわらず、満足してもらえなかったことに驚いた。なにが不満なのか？と。

それは、さんざん学校でのプラクティカルトレーニングでもやってきた、エクスフォリエーションというクリーニングをしなかったからだった。

つまり、毛穴ひとつひとつのクリーニングや顔に生えるムダ毛などを徹底的キレイにされないものは、フェイシャルの意味がないに等しかった、ということだ。一度日本に戻り、日本の現場にいたこともあって、アメリカのやり方が抜けていたことを反省した。もちろんその後すぐに改善し、その後はむしろ高い評価を受けるようになったけれども、アメリカ人のニーズをきちんと把握しないことは、無意味な作業でしかないのだと実感した苦い経験だった。

## その2、エステティシャンに委ねる。

先ほどと真逆のことを書いているようだが、そうではない、きちんと私がアメリカのやり方もそして日本の知識も両方あり、期待に応えてくれると判断されると、全面的に委ねられる。医者と患者の関係のように。それはセラピストを信頼していることであり、そしてその知識と経験があるものだという証でもある。お客様のご希望に沿ってやる、というよりも、お客様にとって良いことをこちらが提案し、進めていく、そんな感じだ。

それがたとえ大統領クラスのマダムでも同じことで、その背景には、きちんとライセンスを取得していることは最低限あることもあげられる。つまりライセンスへの信頼は高く尊重されているのである。そしてそれはとても誇りを持つことのできる経験であった。

エステティシャン、という職業とはなんだろうか。先ほども書いたとおり、人のカラダに触る、ということはとても責任の大きなことなのだ。医者は、同じく多くの知識と経験と試験

を通過して、誇り高き地位にいる。同じく私たちエステティシャンも、薬品を使い、お肌に触れ、カラダの細胞に働きかけるとも深いところで繋がる仕事をしている。それにも関わらず、日本では、誰にでもできる簡単なお仕事、どこか水商売のように見る人さえない職業、消耗品のように扱う企業など、お給料は比較的安く、歩合制でもない限り雇われていたら稼げず、誇りを持つ前にカラダを消費してやめてしまったり、自分自身が病んでしまったり、と問題も否めない。上ももちろんあるが、下もあり、ただ好きだから働く、で片づけるべくことでないと感じる。このお客様ひとりひとりが美しくなり、元気になり、向上しつづけるために、私たちは心からエネルギーを注いで責任をもってやっているにも関わらず、どこかで誇りを持っていないのだろうか？そしてそれには、統一性のない知識の基準と社会的資格の地位の不明瞭感が生み出しているのではないだろうか？

そして、資格とは、やはりただのスタート地点に立たた、ということだけである。だが、美容師や医者や弁護士などのように、国家資格のように統一されたわかりやすいものが存在すると、それらがハードであればあるほど、社会的地位が向上し、扱われ方が変わり、誇りをもって仕事ができるようになり、給料も上がる。そうするとそれで自立できる女性も増えてくる。やりがいを感じるとともに、この仕事に夢を持って向かう若者も増えてくる、また、お客様との関係性ももっと信頼の高いものになっていく。どんどん質の高い世界が拡大していく。そしてそのことが、誇りを持つことにつながっていく。そのように私は海外での経験を通して、考えさせられ、そして今後の日本でのエステティック業界のさらなる向上の必要性を感じている。



## PROFILE

2001年、ニューヨーク州認定エステティックライセンス取得後、日本のホテルオークラ東京や米国のサロンなどを経て、現在、白金高輪のサロンにてココロとカラダと脳のエステを施術している。その確かな腕と癒しの効果に顧客には日本を含め世界各地のセレブリティが定期的に通う。婦人科系に特化したメニューが大好評。